

# 令和5年度 学校関係者評価報告書

田中千代学園  
学校関係者評価委員会

令和5年度学校関係者評価について、下記の通り評価結果を報告します。

## 記

### 1. 学校関係者評価委員

- ・松田 祐之 前・文化学園大学 教授
- ・大豆生田 守 桑沢デザイン研究所 監事
- ・北出 義博 ファッション産業関係者
- ・松木 茜 渋谷ファッション&アート専門学校 卒業生
- ・森下 利典 渋谷区町づくり検討委員、一般社団法人日本板画院 常務理事
- ・佐藤 知己 渋谷ファッション&アート専門学校 在校生保護者

### 2. 学校関係者評価委員会開催状況

第1回委員会 令和5年12月1日(金) 13:30~15:00 本校会議室

第2回委員会 令和6年2月2日(金) 13:30~15:00 本校会議室

第3回委員会 令和6年3月29日(金) 13:30~15:00 本校会議室

### 3. 報告事項

令和5年度の渋谷ファッション&アート専門学校の事業計画における教育目標並びに重点目標について学内に設置された「自己評価委員会」において10項目の基準目標についての現状分析、課題と解決に向けた方向性をまとめて作成された「自己評価報告書」と令和5年度に実施した「学生アンケート結果」、及び令和6年度の入学応募状況について3回開催された学校関係者評価委員会において審議をして評価を行った。それらの結果をまとめて「令和5年度学校関係者評価報告書」として完成させた。

結果内容については以下の通りである。

#### 「自己評価報告書」

本報告書は、理事長、常務理事、校長、副校長及び教員と職員の一部で構成される「自己評価委員会」が令和5年度の教育目標と重点目標及び学校運営や活動に関する10項目の基準目標について自己点検・評価を年度内に3回開催し、その結果をまとめたものである。

#### ・令和5年度重点目標

服飾専門課程～ファッション業界が社会や経済の急速な変化、価値観の多様化のなかで求められる人材は、専門技術・知識のみならず関連職種の技術・知識を幅広く身に付けている「多能職」が求められている。この現状を踏まえて、学生の学ぶ意欲や要望に応じて選択科目を増やし、学びの選択肢を広げるカリキュラムとする。具体的には、1年前期を必修科目として全員が基礎の技術と知識を学び、後期以降は将来やりたい職種をイメージして選択できる科目を大幅に増やした。また、昨年度実施して好評であった学外の専門家の講義・講演など学外交流を図る「ファッション関連講座」を、今年度はクラスや学年を越えて外部と交流を図れる場とする。

結果は、令和5年度入学生よりコース制を廃止し、1年後期以降のカリキュラムで多能職人材育成に資する学修意欲向上にむけた選択科目の充実を図り、将来を見据えた卒業制作・研究につなげることができた。また、学内外の人的交流や企業との活動体験を通じてコミュニケーション力や幅広い視野を身に付ける教育環境も整備された。

文化専門課程～美術表現科、造形表現科と表現研究科の3つのそれぞれが特徴的な科で構成され教育指導も異なる部分もあるが、共通の重点目標は、基礎から応用まで学生の個々の目標を大切に、着実にステップアップしながらカリキュラム作

りと指導を行う。美術表現科では4月から3か月間の各コース共通の基礎を学ぶ授業は教育効果も高く、学び直しのニーズ対応もできるので継続して実施する。造形表現科では、コース共通授業は1か月半に短縮し専門教育充当時間を増やす。これにより両科目の特徴が明確化され新入生の学科・コース選択がしやすくなった。留学生は美術大学進学が目的であるため目標達成できるような指導と環境づくりを行う。表現研究科は、公募展など発表を前提とした制作指導を行う。

結果、美術表現科では課題ごとの前提講義や資料を充実させてわかりやすい授業が行え、基礎授業も学生と教員の交流の場となった。造形表現科では専門教育に時間を充たした結果、学生の集中力が増し作品の仕上がりレベルが向上した。表現研究科では高度なスキルアップの指導を行い、多数の入賞、入選者を輩出した。また、文化専門課程の特徴として留学生比率が高いことがあり、これらの留学生は大学、大学院進学を目指す学生が多く、目標達成に向けた指導の効果により大学院博士後期課程に初の合格者はじめ有名美術大学への合格者数も増えてきている。

以上の教育目標、学修成果や学生支援の重点目標実現に向けての教育指導に加えて、学校運営や教育環境等の基準項目についても現状の課題を抽出して解決にむけて取り組みを実施した。主要な取り組み事案は以下のとおりである。

教育活動については、学生数も増えて多様な学生ニーズへの対応にむけた教職員のスキルアップ並びに教育の必要性が課題として捉えられた。また、学生へのきめ細かい対応を図るために当委員会でも討議された服飾課程の助手については、令和6年度4月より卒業生の採用を決定した。学生のよき相談相手として期待される。

教育環境については、夏季休暇中に全館の空調工事を終了し快適な環境づくりを整えた。今後は水回りトイレの環境整備に取り組む。

学生募集と受け入れについては、近年の留学生志願者が増加し、募集要項の見直しも議論があり、今後の検討課題である。

学生支援については、多様な学生への日々学内での対応、退学者や休学者への対応等、学校全体でカウンセリング体制の整備、キャリア教育の充実は必要である。

防災・安全管理については、留学生が増えたこともあり防災マニュアルの見直し、防災訓練の実施も取り組むべき喫緊の課題である。

以上が「自己評価委員会」の結果報告である。

このように教職員主要メンバーで構成される委員会で、学校全体の活動について自己評価を行い課題解決に活かしていくことは学校運営において大変重要で有意義であると判断する。

## 「学生アンケート結果に対する評価報告」

令和5年度の学生アンケートは、「授業評価アンケート」について4段階の評価と服飾専門課程学生を対象に「学校生活に関するアンケート」を実施した。学生が学校に対してどのような印象を持っているかを総合的に捉えられる内容とした。

### ・授業評価アンケートについて

服飾課程では、全体的には授業に前向きに取り組んでいると受け取れる結果や少人数授業の良さを享受しているとも受け取れる結果が出ているが、「余りそう思わない」「そう思わない」と回答する割合が増えているのは懸念される。ただ、学生間の学力差もあり、ついていけない学生への対応や指導に教員の負荷がかかることも事実である。学生対応をアシストする助手の登用については自己評価委員会でも意見は出ており、最終的に令和6年度に採用が決定した。

就職に関しては、気にしている回答は多いが、意識も低く具体的なイメージが描けていない学生が多い。将来の進路に影響する選択科目の選定についても教員の面談指導やキャリア教育の充実が求められる。

文化専門課程では、コースにより多少のバラツキはあるが授業評価については概ね満足度の高い評価が出ている。留学生はほとんどが大学、大学院進学を目指しているが通常のカリキュラムで授業を進めている。進学希望の学生には教員から適宜指導・アドバイスは行っており不満はない。また、設備や環境についても満足度が高い評価である。

### ・学校生活に関するアンケート（服飾専門課程学生のみ対象）

本学校への入学の決め手では、学校・在学生・教員の雰囲気、周辺環境、学費や授業カリキュラム内容が決め手となった回答が多い。また、入学後の学校生活の満足度も高く、少人数教育に関しても高い評価を得ている。

## 「これからの本校の在り方と学生確保に向けた対策」

理事長より、18歳人口が減少し続けるなか、服飾関連学校の現状は大変厳しい。全国、都内でも専門学校が減少しているとの報告を受けた。

かかる状況を踏まえて、本校では服飾専門課程と文化専門課程に加えて、新たな領域での学生を募集するため新課程設立の検討を重ねてきた。

このほど理事長より「建築クリエイター科」を創設することが発表された。現状では、まだ認可が下りていないが下りしだい令和7年度の募集活動を進めていきますとのことである。本学の新たなクリエイティブな柱として期待をしたい。

本校は6年前に文化専門課程を導入し、この数年の本校の生徒数は、服飾専門課程では減少傾向、文化専門課程では増加傾向にある。

学生確保の観点から、令和6年度入学者の応募状況は2024年3月31日現在では以下の通りである。

服飾専門課程ファッション総合科は、入学定員40名に対して出願者数13名。前年比較4名減少であった。文化専門課程は、週4日通学は入学定員120名に対して出願者は204名、内留学生数177名である。前年比較では112名増加し、内留学生増加数は114名である。特に中国からの留学生の増加が顕著であり、これは在留資格取得や進学指導が評価されたことであり、本学の学生確保の上での強みともいえる。

減少傾向にある服飾専門課程においては、学生アンケート結果から読み取れる本学の特徴や良さを更にレベルアップを図り、対外的に継続して本学の情報発信をおこない学生確保につなげる施策の取り組みが大切である。

以上